

第558号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2015年 9月16日
発行責任者 喬木村公民館長 橋本 美穂
編集責任者 公民館編集部 長 仲田 久志
印刷 龍共印刷株式会社

第二回平和学習会

長野県立歴史館・松代大本営見学

台風を気にしながら、参加者二十八名が車二台で八時半に役場を出発しました。最初に千曲市にある長野県立歴史館を訪れました。歴史館は二階建てで、喬木村出身の青木隆幸先生が私たちを笑顔で出迎え館内を案内してくださいました。戦後七十年の企画展「長野県の一四五」は、戦争当時の生活が見えてくる貴重な資料ばかりでした。一人一人が寄せ書きをした日章旗、従軍看護婦さんが着たという黒い制服が展示され、看護婦さんも兵士同様に赤紙がきて遺髪を残し戦地に赴いたといえます。その方が綴った日記も展示されていました。当時、長野県内で特攻隊員として亡くなった方の数は全国で八番目で、陸軍、海軍合わせて約百二十人と

いうことです。また、満蒙開拓団員として満州に渡った方は全国一多く、長野県は国策に対し何事にも熱心だったと聞き、考えさせられました。あつという間に時間が過ぎ歴史館を後にしました。続いて訪れたのは松代大本営象山地下壕でした。ここは軍部が本土決戦に備え、大本営や政府機関を移すよう計画した場所です。ひんやりとした地下壕は所々ライトで照らされ、荒削りの岩肌がむき出しで、掘るのはさぞかし大変だったろうと思います。ここに集められた労働者は延べ三百万人と言われている。ことに植民地地下にあった朝鮮からの強制連行者を含む約六千人の人々は、その作業の中心的役割を果た



長野県立歴史館にて 喬木村出身 青木隆幸先生による案内

していました。粗末な食事と苛酷な労働により、命を落とす人が多かったという事でした。着工は昭和十九年十一月十一日、翌年の八月十五日が終戦ですから、一年あまりのうちに舞鶴山、皆神山、象山という三つの山に基盤の目のように壕が掘り抜かれ、総延長は十キロに及んでいます。私たちが歩いたところは「象山」で政府機関、日本放送協会、N.T.Tが入る予定になっていた所でした。全行程の七五%の階段で終戦となり、工事は中止されたといえます。

最後にガイドさんは沖繩と松代は深い関係があり、地下壕建設に携った労働者ばかりでなく、沖繩戦は松代に大本営を移すための時間かせぎであったという事を忘れないでほしいと言われました。

歴史の事実を肌で感じ貴重な経験でした。関係されました皆様へ苦労様でした。平和学習会 実行委員

普段ここまで考えず、自分の好み優先しがちですが、皆様の花壇（ガーデン）はいかがでしょう。

花壇見聞 楽しいガーデン巡り

たかぎガーデニングクラブ 小澤 敦子

日頃は寄せ植えや苔玉作り、鉢づくりを楽しんでいる私たちですが、今回の主役は「ガーデン（花壇）」を選びました。クラブ員の中には既にオーブンガーデンされている方から、花壇づくりを楽しんでいる方、また花壇づくりを始めたばかりの方と様々な構成です。そうした中で共通項は「花や植物が大好き!!」そう！これなので



オープンガーデン どなたさまもウェルカム！

図書館・子ども学遊館

子ども夏祭り2015



学遊館

八月九月に樟樹十記念図書館・子ども学遊館共催の「子ども夏祭り2015」が開催されました。当日は、飯田OIDE長姫高校コン

ピューター制御部の先生と生徒さんが講師となり、「紙飛行機つくり」と題し厚紙に印刷された飛行機の型を切り抜き、割り箸と輪ゴムを使った本格的な紙飛行機を作り上げました。完成後は芝生のグラウンドで耐空時間や飛距離を競い合いました。

また、押花等をラミネートしたコースター作りを行い、多くの子供達が夏休みのひと時を楽しみました。

図書館

夏祭りに図書館では、「むかしばなしクイズ」「樟樹十検定」「手づくりプラネタリウム」など小さな子から大人まで楽しめるコーナーを考えました。

クイズの答えを探すために親子で絵本を読んだり、二階で暗くした中カラフルな灯りが天井に映し出された手作りプラネタリウムを眺めたり、幼児コーナーは浦島太郎のお話の世界「竜宮城」をイメージし、職員手作りのカメと浦島太郎や乙姫の衣装を着て写真撮影していました。学遊館と合わせて夏の楽しい思い出となった一日でした。



むかしばなしクイズに挑戦！



みんな紙飛行機づくりに夢中

あの時

私は釣りが趣味なので、開高健という作家に大変興味がありました。彼の本を愛読した時期がありました。

彼はある時期から釣りを始め、世界中を回っているいろいろな魚に挑戦し「フィッシュ・オン」とか「オーバ」といった本を書いています。

釣りのスタイルはフライヤルアー釣りのキャッチ&リリースで、釣る楽しさを追い求めたものです。

彼の釣りに興味があるのですが、もう一つ彼が朝日新聞の特派員としてベトナム戦争の際南ベトナム軍に従軍し、死と直面する体験をしており、帰国後小田実などとベトナムの活動に加わった経歴があります。さらにその後平連の活動とも一線を画すようになります。

そんな彼がなぜ釣りにのめり込んでいったのか、ほぼ同じ世代の人間として何となく分かる部分もあるのですが、大変興味がありました。

自分の老いていく体の痛みに耐えて、魚との孤独な戦いの中で自分を昇華していくような、まるでヘミングウェイの「老人と海」を彷彿とさせる生き方が大変魅力的でした。

彼は多分戦争に代表されるような人間のどうしようもない性に嫌気がさし、昔ながらの竿と糸と針だけのシンプルな道具で魚と戯れる少年のような心や行動に憧れたのではないかと思うのです。

自分をとことん追い込まないと文章が書けないような躁鬱の状態を繰り返しながら、そこから出てくる文章はしゃれていて男らしいものでした。

彼の本の中に次のような一文があります。

「一時間幸せになったかったら酒を飲みなさい。

三日間幸せになったかったら結婚しなさい。

八日間幸せになったかったら豚を殺して食べなさい。

永遠に幸せになったかったら釣りを覚えなさい。

何を言うかと思われる方も多いと思いますが、なんとなく納得してしまう部分があると思いませんか。

平成27年度 成人式

おめでとう!力強く踏み出せ明るい未来へ!

八月十五日、平成二十七年香木村成人式が防災センターを会場に開催されました。今年度の対象者は六十五名（男性二十九名、女性三十六名）で、その内約八割の四十九名の方が出席されました。

式典では、村歌を斉唱した後、市瀬直史村長の式辞があり、来賓を代表して、小澤博村議会議長、吉川貴俊教育委員長職務代理者より、それぞれお祝いの言葉をいただき、新成人の皆さんは成人として気持ちを新たにしています。

また、新成人代表二名による意見発表では、それぞれが今頑張っていることや、これからの決意等について発表がありました。

あいさつ

実行委員長

熊谷 涼



本日は、私たち新成人の為にこのような素晴らしい式典を催して頂き誠にありがとうございます。

新成人を代表いたしましてお礼申し上げます。

市瀬村長を始め、多くのご来賓の方より温かいお言葉を頂き、身の引き締まる思いです。

私たち新成人は各々の目標や夢を持ち、その目標や夢を追うために、就職を選んだ人、進学を選んで勉学に励んでいる人がいると思います。

私は就職して、社会人として社会に出て働いているのですが、その中で今まで育ててくださった両親や、成長を見守ってくださった地域の方々はこの大変なことをしながら私たちの

午後からは、新成人の皆さんで組織する実行委員会主催による祝宴が行われ、中学校の恩師や友人との久しぶりの再会に、写真を撮影し合ったり、思い出話や近況報告で、幾重もの笑顔の輪ができていました。

新たに成人になられた六十五名の皆さんが、それぞれの道で大きく飛躍され、香木村の将来にとって大きな力となることを期待します。

なお、成人式の開催にあたり、今年も禁煙友愛会香木支部の皆さまから生花が、村婦人会の皆さまから成人式参加者全員に手づくりの福が来るフクロウストラップが贈られました。

式典の中で行なわれた意見発表等を紹介します。

成長を助けてくださったいたんだなと身を以て感じました。本当に感謝しております。

成人を迎えたとはいえ、私たちはまだまだ未熟です。これからも私たちを温かい目で見守っていただけ

れば幸いです。どうぞ今後ともよろしくお願い致します。

簡単ではございますが、成人代表としてお礼の言葉とさせていただきます。

本日は本当にありがとうございます。



20歳の記念写真

成人式を迎えて

木下 遥菜



本日は、私たちのために、このような盛大な成人式を開催していただき、誠にありがとうございます。

この日を迎えることができたのは、市瀬村長さんをはじめ、私たちを見守って下さった地域の方々、支えてくださった方々のおかげです。心より感謝申し上げます。

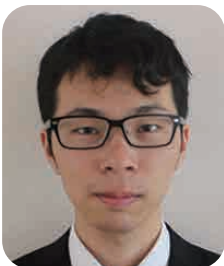
ここ、香木村で育った私たちも早いもので二十歳を迎え、仕事に打ち込んでいる人、学業に勤しんでいる人など様々です。

しかし一人一人が社会に対して責任を持つようになつたことは全員に共通することであります。

この成人式は改めてその責任の重みを感じる機会です。

成人式を迎えて

羽生 魁星



本日は私たち新成人のためにこのような式を開催していただき誠にありがとうございます。

この香木村で小、中学校を

あると考え、いっそう身を引き締めていく所存です。

さて、私は今、茨城県にある大学で日本語について学びつつ、高校の国語の教師を目指しています。大学の友人たちは、北は北海道、南は沖縄と出身が様々です。そんな友人たちと話していると、自分が育った香木村について、あるいは香木村で育った自分について、客観的に見つめなおすことが出来ます。

小学校・中学校時代を振り返って最初に思い出すのが、学校までの行き帰りの道です。朝露でなぜかきれいに見えた蜘蛛の巣や、帰り道に見た真っ赤な夕焼け、笹舟を作って競争させたり、ひたすら石を蹴りながら帰ったり、雪で凍った道で遊んだり、雪で凍った道で遊んだり。懐かしんで大学の友人に話すととても驚かれ、あの日々は貴重な体験であったのだと今になって思います。

また、樟鳩十記念館図書館で本棚の間に座り込んで本を読んでいた自分も思い出されます。本は私をいろいろと

共にご一緒した仲間達と成人式を迎えることができ本当に嬉しく思っています。

このような日を迎えることができたのは村長さんをはじめ香木村の地域の皆様への支援があったからです。心より感謝申し上げます。

今現在、就職している人や学生の人など、私たちの置かれている状況は人それぞれ違うとは思いますが、これからは新成人として一人一人が社会に貢献していかなければなりません。しかし社会

最後になりましたが、私たちが支えてくれた両親や家族、導いてくださった先生方、そして地域の方々に感謝の意を申し上げます、新成人代表挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

式典にて 出席者 香木村歌を斉唱



めたのですが、高校、大学と今まで続けてきました。自分が中学校から大学までやっていることは勉強と吹奏楽の二つで、今思えば中学校のころとやっていることはそれほど変わらないうえに、これに残りの大学生活をよりいっそう大切に過ごしたいです。

最後にありますが育ててくれた両親に感謝します。簡単ですが成人代表の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

第18回 棕文学夏期講座 棕鳩十にとって『ハイジ』とは何か

講師：児童文学者・黒姫童話館長 和田 登 氏

去る八月二十三日（日）棕鳩十記念館にて、第十八回「棕文学夏期講座」が開催されました。『望郷の鐘』の著者として知られる児童文学作家の和田登さんが、「棕鳩十にとって『ハイジ』とは何か」と題して、少年時代に棕鳩十の運命の書となった『ハイジ』との出会いについて語りました。

和田さんは、『ハイジ』との感動的な出会いが、その後の棕の運命や生き方を決定づけたとし、『山の太郎熊』（昭和十三年少年倶楽部十月号）との類似点などをあげて、棕の想い描く理想的な人間像・社会像はどのようなものであったかを話されました。

『ハイジ』との出会いの時期について、和田さんは多くの書物が小学校六年の時に担任の市瀬厚先生から借りたところから、日本で『ハイジ』の初版本が出版されたのは大正九年二月。つまり棕が旧制の飯田中学時代であることから、出会いの時期にずれがあるという。

中学時代に出会った根拠として、『心に残る教師のこゝと』（昭和四十八年明治図書）の中で、棕が書いた次の文章をあげている。あれは、紫陽花の咲く頃であったから、六月だったのであるうか。緑の雨蛙が、花の上に、ちよこんと坐っているのを、校舎の板壁にもたれて眺めていたら、名前を呼ばれた。顔を上げたら、正木先生が立っていた。『注文していた本が今朝ついた。いい本だぞ。読んでみるか』



講師 児童文学者 和田 登さん

ヨハンナ・スピリは敬虔なクリスチャンであり、『ハイジ』の特徴の一つは創造信仰と救済信仰の融合であると言う。（正木ひろしもキリスト教徒であった。これらのことから和田さんは、「事実と真実の関係」について、棕の言葉を借りて説明し、『ハイジ』のタヤケの自然描写に感動する棕少年の姿は、小学校時代の方が、より感動的であると判断したためではないかとまとめた。このことは顕彰会の例会でも話題になっておりしたので、胸に落ちるご講演となりました。

たかぎふるさと祭り盆踊り

〜みんなで作った踊りの輪〜

恒例のたかぎふるさと祭り盆踊りが、八月十五日、養護学校校庭で開催されました。

公民館社会部・教養部では、より多くの方に盆踊りを楽しんでもらうよう、盆踊りの練習会を開催するなど取り組んできました。

迎えた当日、今年は天候にも恵まれ、夜空を花火が彩る中、盆踊りを最後まで無事行うことができました。

たかぎの子どもさんたちや、踊り関連の皆様、今年から村にやってきたALITのロベルタ先生など、さまざまな方にご参加いただき、盛りだくさんな盆踊りとなりました。

恒例のたかぎふるさと祭り盆踊りが、八月十五日、養護学校校庭で開催されました。

公民館社会部・教養部では、より多くの方に盆踊りを楽しんでもらうよう、盆踊りの練習会を開催するなど取り組んできました。

迎えた当日、今年は天候にも恵まれ、夜空を花火が彩る中、盆踊りを最後まで無事行うことができました。

たかぎの子どもさんたちや、踊り関連の皆様、今年から村にやってきたALITのロベルタ先生など、さまざまな方にご参加いただき、盛りだくさんな盆踊りとなりました。

大勢の方の参加をいただきました

たかぎ短歌会 葉月歌会詠草

亡き夫に報告もあり愚痴もある盆には帰って我が傍に居て明日は散る椿と思ひ寄りゆくにいま生き生きと白き一輪
税理士の二重の腕輪目につきて申告の緊張にはかに解けぬ
ひたすらにうからと励む養豚にT P Pの行方を案ず
若き日に佐渡の濱辺を寄り添いて歩きし日のこと懐かしきかな
内閣の「安保法案」容認は禍根を残さん九条違反
山峡の初夏の集荷所朝なさなブルーベリー並ぶ所狭しと
鈴虫の成長を待つ友のあり澄める泣き声届ける日近し
夏祭りに赤飯炊いて重に詰め隣組なる輪の中に来ぬ

小 椋 りよ
毛 涯 百合子
木 林 睦枝
知 久 美子
羽 生 俊彦
原 健彦
内 山 和子
木 下 寿子
田 中 妙子

梅雨晴れて夾竹桃の鮮やかな彩り愛でる寮の朝夕
もう二度と若者を戦場へ送るまい戦後七十年折鶴に託す
いつの間に熟睡に入りしか目覚めよく空の蒼さに諸手を挙げる
清流の若鮎のごと爽やかに元氣あふれる寮母Mさん
梅雨明けの乾きし布団の心地良く太陽の匂ひに顔をうづめぬ
水害の防止の役目終えし松に二百余年の歴史を觀たり
元氣良く歩きし昔を懐かしむ一里の道を五年間通学
兵送り英靈迎へし村はづれの峠路しるく夏草茂る

市 瀬 准子
岩 間 幸子
元 島 康子
大 村 初見
関 島 春子
大 倉 知江
市 瀬 マス
宮 脇 妙子
桐 原 邦夫
壬 生 千春
福 澤 龜人

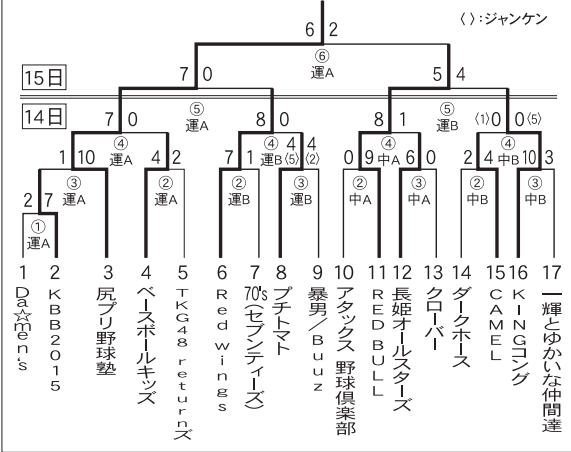
喬木村駅伝大会 参加申し込みについて

第27回喬木村駅伝大会を11月1日（日）に行います。
午前9時に運動公園グラウンドをスタートし、上平トンネル、小川、役場、伊久間、阿島を通り、運動公園までの7区間約15.7kmです。
参加資格につきましては、村内に住んでいる方及び村出身者、村内事業所に勤務する方、小学生4年生以上の児童生徒となります。
参加を希望される方は、分館、事業所、学校、友達等でチームを作ってください、10月21日（水）までに教育委員会窓口にあります用紙にてお申込下さい。多くの方のご参加をお待ちしております。

喬木村公民館 電話33-2002

第66回 喬木村盆野球組合せ表

優勝：尻ぶり野球塾 準優勝：RED BULL



第66回 盆野球大会開催 祝尻ぶり野球塾優勝！

第六十六回盆野球大会が、八月十四日、十五日の二日間にあたり、運動公園グラウンドと中学校グラウンドで開催されました。今年度は参加チームが昨年と同様、全十七チームで熱戦が繰り広げられました。



優勝 尻ぶり野球塾

編集後記

あんなに暑かった夏もあつと言う間に過ぎ、朝晩の冷たい空気に何とも物寂しさを感じるようになった。そんな感傷と同時に果物やさんまやら食べ物が美味しい季節となった。

「天高く馬肥ゆる秋」
気をつけなければいけないのは、寒い冬に向けて知らないうちにどんどん蓄えている脂肪。

口からぼくぼく物が入っていくから困ったものである。
食べないダイエットもあるが筋肉を落としてしまうからその分余計脂肪がつき、リバウンドが激しい。
とにかく適度な運動を忘れないで生活したいものだ。

